

2025年度 大学入学者選抜
-総合型選抜・学校推薦型選抜-
動向調査

【調査概要】

- 調査目的
総合型選抜および学校推薦型選抜の入試情報や大学全体の傾向などを明らかにする。
- 調査方法
FAXによる配付・回収／メールによるデータ配付・回収
- 調査対象
大学・短期大学 676校を対象に調査
- 調査期間
2024年4月25日～5月24日
- 有効回答数
420件(回答率:62%)
- 集計上の注意
本調査では「無回答」を集計から除外している。そのため、グラフ・表には「無回答」の欄を設けていない。また、本集計の割合(パーセント)は、小数点第一位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

【回答校内訳】

設置者別:

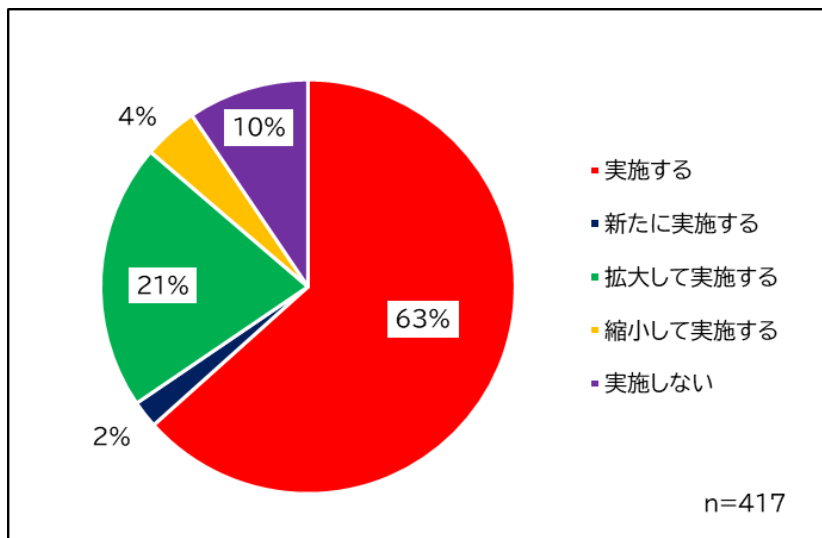
設置者	回答数	割合(%)
国立	21	5
公立	47	11
私立	352	84

地域別:

地域	都道府県	回答数	割合(%)
北海道	北海道	24	6
東北	青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県	31	7
北関東	茨城県・栃木県・群馬県	18	4
南関東	埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県	122	29
甲信越	新潟県・山梨県・長野県	21	5
東海	岐阜県・静岡県・愛知県・三重県	50	12
北陸	富山県・石川県・福井県	12	3
近畿	滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県	68	16
中国	鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県	24	6
四国	徳島県・香川県・愛媛県・高知県	8	2
九州・沖縄	福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県	42	10

【総合型選抜について】

Q1-1. 2025年度入試で、総合型選抜の実施予定はありますか〔全体〕



● 「拡大して実施」の内訳
(複数回答・無回答あり)

学部数	実施回数	募集人員
19	41	45

● 「縮小して実施」の内訳
(複数回答・無回答あり)

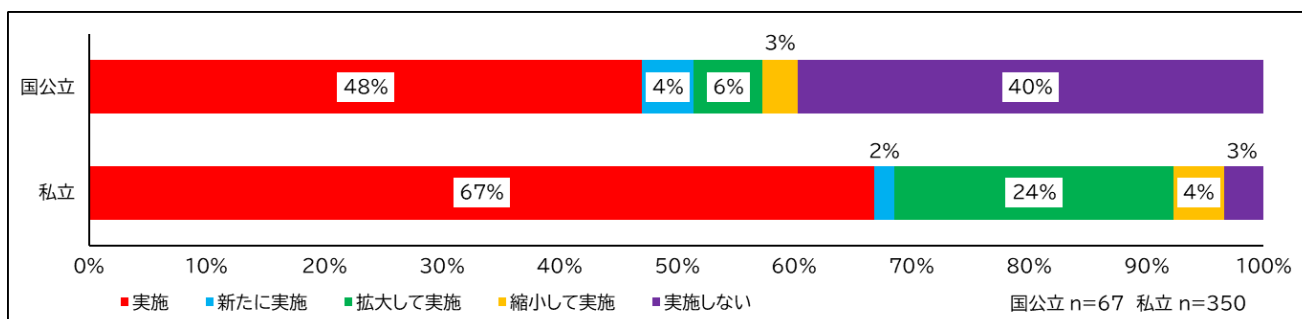
学部数	実施回数	募集人員
1	10	7

これまで通り「実施する」が63% (268回答) だった。「新たに実施」と「拡大して実施」を合わせると、23% (97回答) の大学で総合型選抜を新たに導入あるいは拡充させる方向にあることがわかった。

「新たに実施」の理由としては、「志望度の高い受験者を早期に獲得するため」や「アドミッション・ポリシーを理解し、各学科・コース全体の活性化に寄与し得る優秀な受験生を多く獲得するため」などが挙げられた。また、「拡大して実施」の理由には、「進路決定の早期化に対応するため」や「総合型選抜で新たな入試種別をつくったため」などの声があり、総合型選抜をすでに実施している大学においても、新たな取り組みをしているケースがみられた。一方、入学定員の減少や日程・回数の見直しなどを理由に「縮小して実施する」大学も、割合は少ないもののあった。18歳人口の減少に伴い学生募集に苦戦する大学が増えているなか、早期化する受験生の進路決定の傾向に合わせて入学者選抜制度の見直しを図っていることがうかがえる。

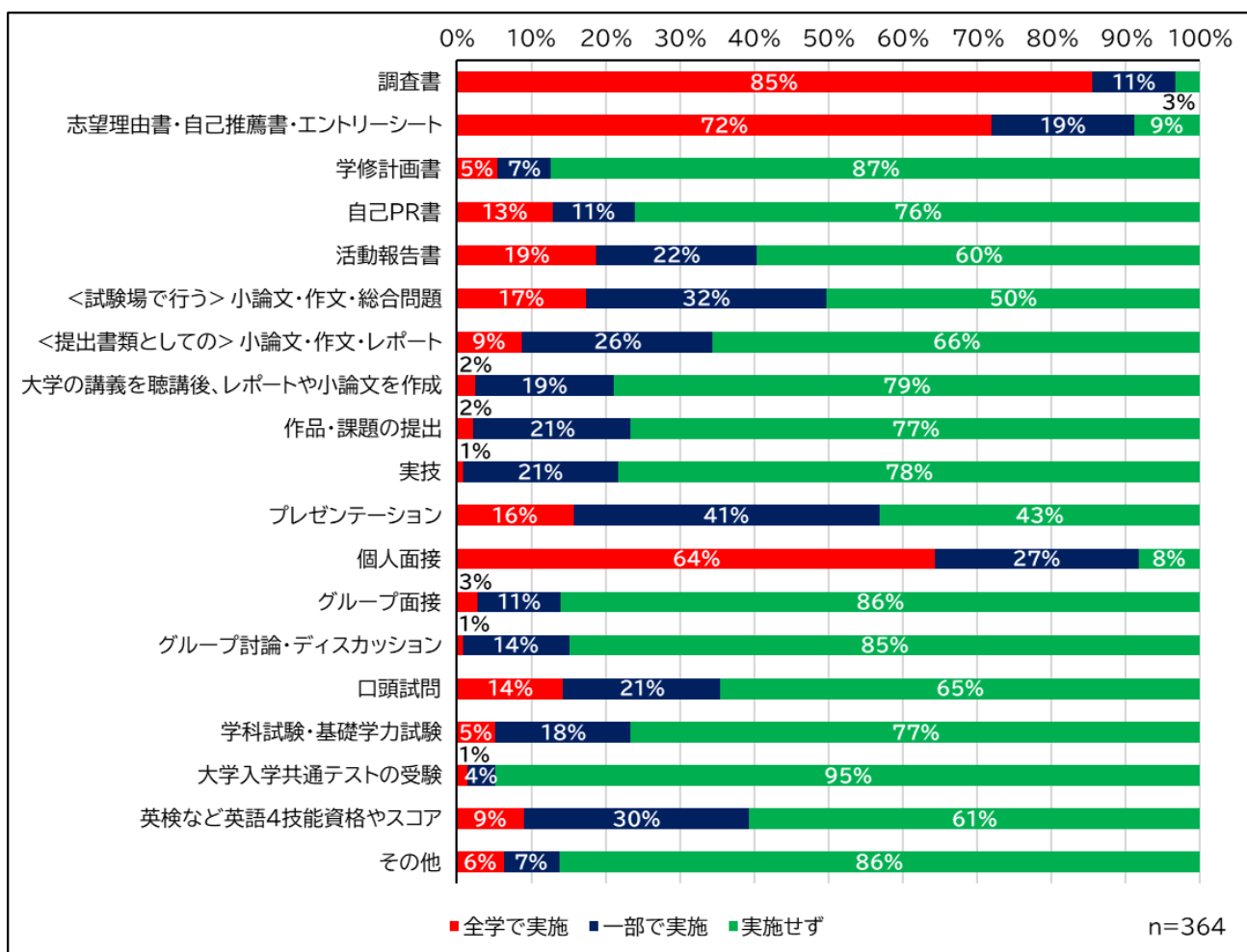
前年度比では「拡大して実施」がプラス13%、「縮小して実施」がプラス1%、「実施しない」がマイナス3%で、総合型選抜は拡大傾向にあるといえるだろう。2014年度からの継続調査において、11年連続で総合型選抜(AO入試時代の調査を含む)の実施が拡大している。

Q1-2. 2025年度入試で、総合型選抜の実施予定はありますか〔設置者別〕



国公立大学は「縮小して実施」も含め、61% (41回答) が総合型選抜を実施している (昨年度は55%が「実施する」と回答)。私立大学の場合は97% (341回答) が「実施する」と回答した。次年度は国公立で6%、私立で24%の大学で新規もしくは拡大して実施する計画となっている。多様な学生を獲得したい大学側の意図はもちろんのこと、受験生のトレンドを捉え、出願がより望める入試形態で学生募集をしようとする考えを反映した結果となった。

Q2-1. 選考で課しているものは何ですか(エントリー時の内容含む) [全体]



※「全学で実施」は「全ての学部や方式」で導入、「一部で実施」は「一部の学部・学科や方式」で導入

例年と同様に「調査書」、「志望理由書」、「個人面接」が上位を占める。いずれも、「全学で実施」と「一部で実施」を合わせると9割を超える大学で課していることがわかる。総合型選抜では、大学側は調査書の内容を重視していることを意識したい。調査書は日頃の積み重ねが反映されるものである。そのため生徒に求められるのは、高校入学時点から目的意識をもち、いかに充実した学校生活を送るかである。

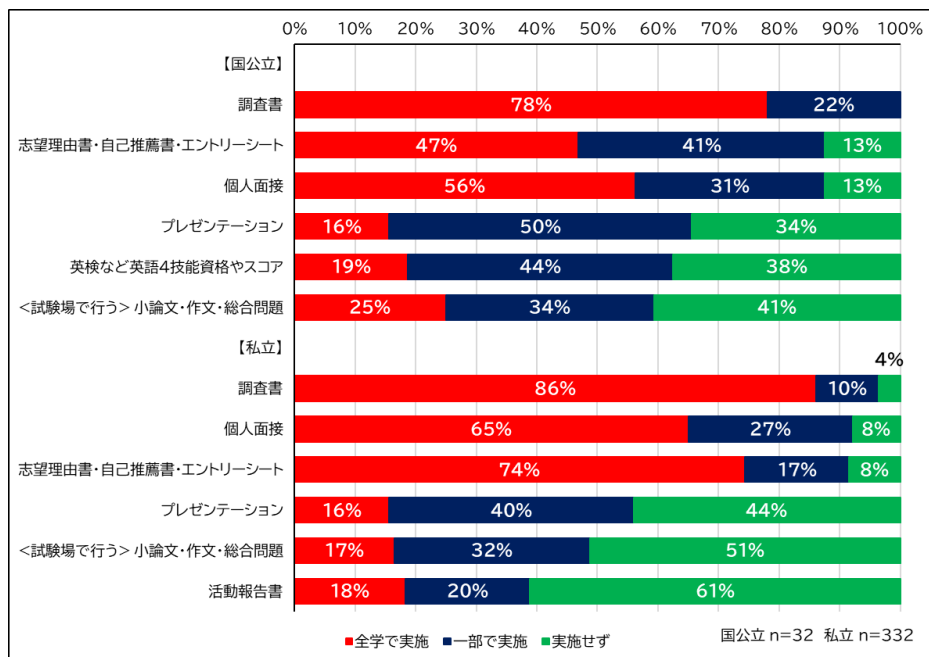
「<試験場で行う>小論文・作文・総合問題」は例年通り50%ほどだった。志望理由書と同様に一定の文章力が必要なのはもちろん、テーマに対する知識が求められるため、付け焼刃では対応できない。こちらも早期から指導を積み重ねて対策しておきたい。そのほかの項目については、例年と比べて大幅な増減はなかったものの、「面接」や「プレゼンテーション」、「口頭試問」など、アドミッション・ポリシーや学部・学科の学びを理解したうえで、大学で学ぶ目的や入学後のビジョンを示す論理的な思考力と総合的なコミュニケーション能力が求められる選考を課す大学が多い。

Q25の自由記述「総合型選抜・学校推薦型選抜で不合格になった受験生の特徴」では、「大学で学ぶ目的がはっきりしない」、「アドミッション・ポリシーの理解が乏しい」、「学部・学科の理解が足りない」、「面接で質問の意図を理解できない」といった回答が今年度も多くみられた。総合型選抜では、自己理解・大学理解・学び理解・コミュニケーション能力が鍵となる。受験に必要な選考内容を早めに把握して、着実に準備したいところだ。

「その他」の回答には、「体験講義と学習レポート」「適性検査」「ワークショップ」などがあり、受験生のもつ資質や特徴を大学独自の選考内容で測ろうとしていることがうかがえる。

Q2-2. 選考で課しているものは何ですか(エントリー時の内容含む)〔設置者別:上位6項目〕

「全学で実施」と「一部で実施」の合計で、「調査書」、「志望理由書・自己推薦書」、「個人面接」、「プレゼンテーション」、「<試験場で行う>小論文・作文・総合問題」が、国公立とも上位6項目に入った。そのなかでも、上位3項目の内容は一昨年度から変わらない。総合型選抜において、もはや必須といってよい試験内容だろう。国公立大学では昨年度53%（今年度56%）だった「活動報告書」の代わりに



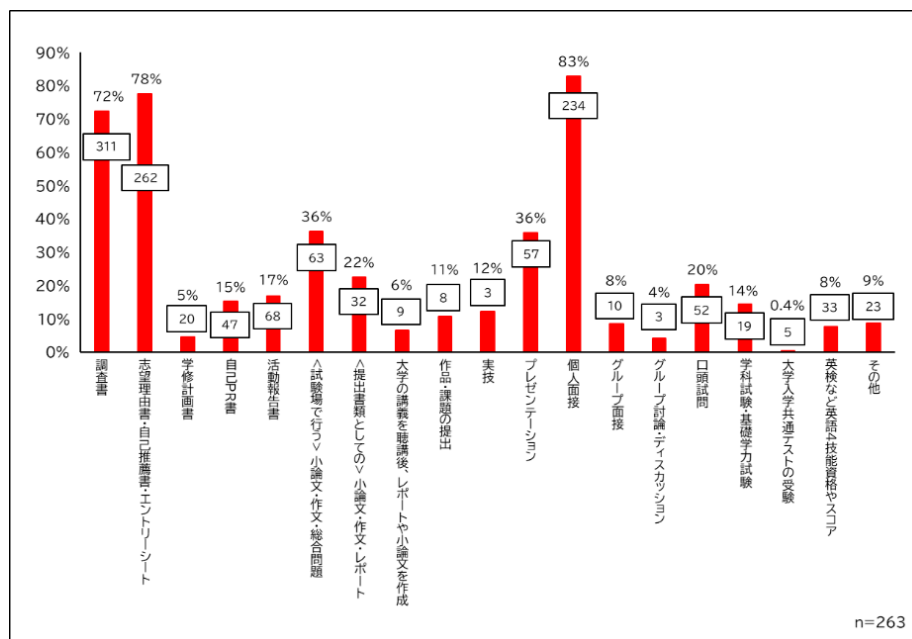
「英語4技能資格やスコア」が、私立大学では昨年42%（今年度37%）だった「英語4技能資格やスコア」の代わりに、「活動報告書」が上位6項目にきている。

Q3. 入試でとくに重視する選考内容は何ですか(5つまで選択可)

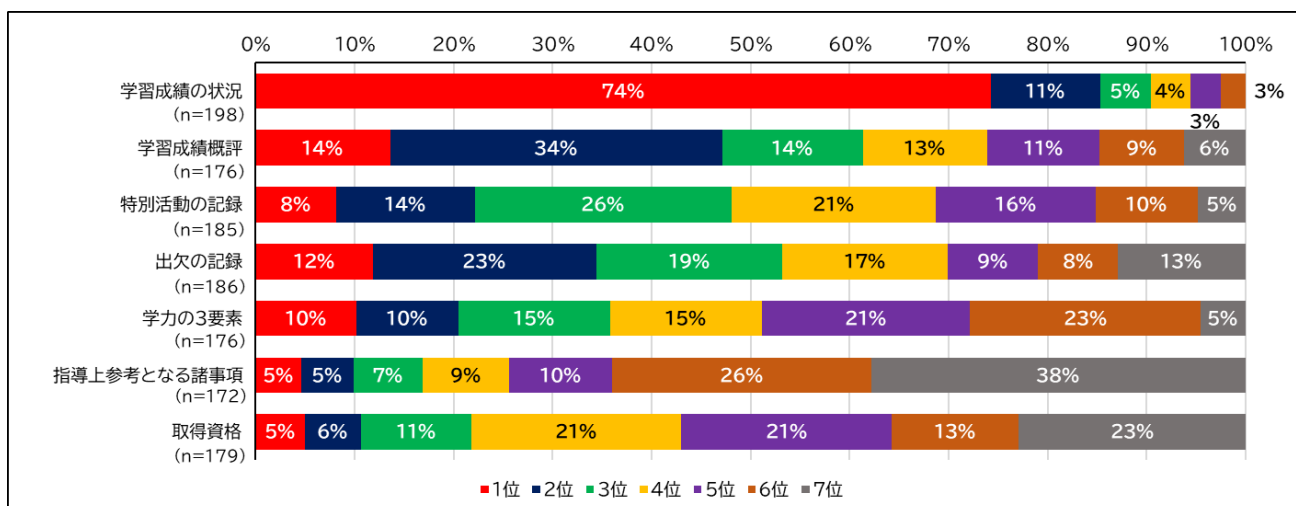
棒グラフの上段の数値は、「とくに重視する」と回答した割合、下段の囲みにある数値は先のQ2-1の各項目にて、「全学で実施」と回答した数を示している。

全体の傾向はここ数年で変わらず、選抜でとくに重視する選考内容は「調査書」、「志望理由書」、「個人面接」が突出している。なお、「個人面接」は前年度から8ポイント増えた。

上位3項目から大きな差はあるものの、「<試験場で行う>小論文・作文・総合問題」と「プレゼンテーション」が続いているのも例年通りである。「作品・課題の提出」は芸術系、「実技」は芸術系および体育系や保育・幼児教育系の大学・短期大学でよく課されている。「学科試験・基礎学力試験」については、医歯薬系や理工系の大学に多い。総合型選抜においても、大学教育に耐え得る一定の学力を有しているかを測ろうとしていることがうかがえる。「自己PR」単独での回答数は少ないが、志望理由書や面接には含まれる要素になるため、これまでの経験をもとめ、分析し、自分の強み（あるいは弱みを含めて）を知るための取り組みは疎かにできない。



Q4. 調査書で重視する項目は何ですか（重視する順に1～7位で順位づけ）

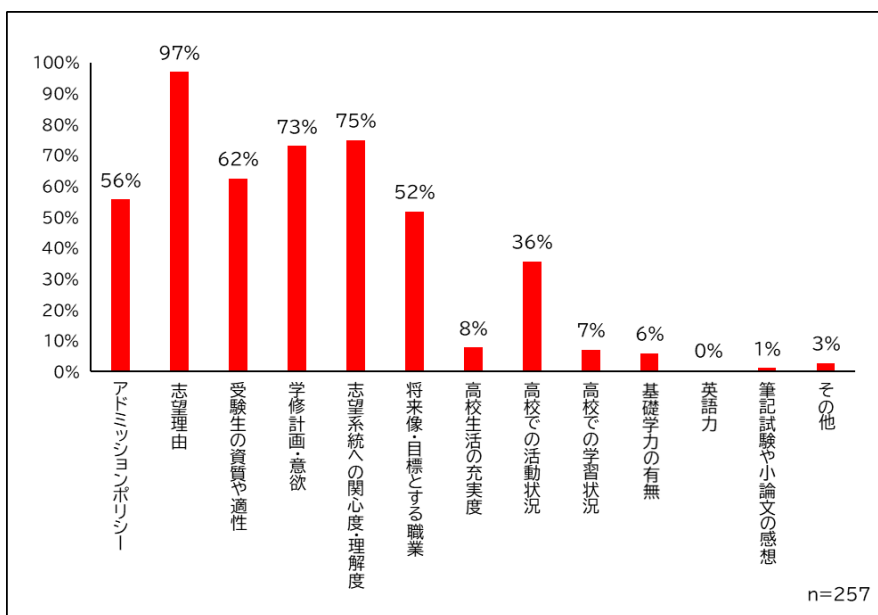


1～3位までで考えると、「学習成績の状況」が最も重視される項目となっており、同じく学業成績に関連する「学習成績概評」が続く。この傾向は昨年度と変わらない。「特別活動の記録」を1位としたのは8%だったものの、2位で14%、3位で26%と、ここまでで約5割の大学で重視していることがわかる。「出欠の記録」も同様に、1位は12%だったが、2位で23%、3位で19%と、出欠の状況をよく見ている大学が多い。ただし、「特定の項目というわけではなく、全体を踏まえて総合的に評価する」という回答も多くみられた。

Q5. 面接で尋ねる項目で、とくに重視するものは何ですか（5つまで選択可）

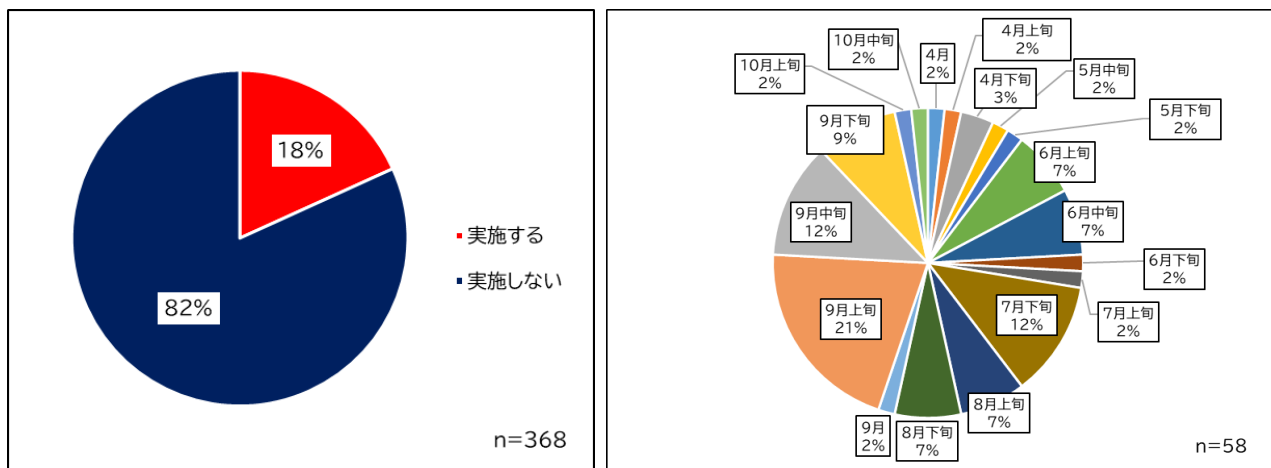
「志望系統への関心度・理解度」が前年度調査より6ポイント増えたものの、面接で重視する内容の全体的な傾向は、ここ数年の調査で変化はない。面接で問われる内容は、例年大きく変わらないということだ。受験生も面接で問われるポイントは把握していると思われる。

しかしながら、今年度もQ25の自由記述「総合型選抜・学校推薦型選抜で不合格になった受験生の特徴」では、準備不足を指摘する声が多くみられた。具体的には、「アドミ



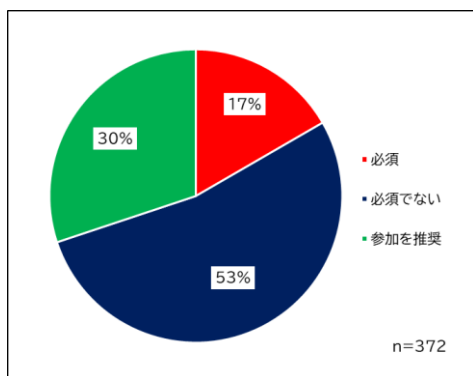
ッション・ポリシーを理解していない」、「志望理由や学部・学科理解があいまい」とコメントしている大学が多いことから、これらの点を精査しておくことが総合型選抜の面接を突破する鍵になりそうだ。「なぜ、大学で学びたいのか」、「なぜ、その大学なのか」、「なぜ、その学部・学科なのか」、「学んでどうしたいのか」といった問いに対して、過去・現在・未来の時間軸で自己理解と自己分析を進め、面接に臨みたいところだ。そのために、学校相談会や入試説明会、オープンキャンパスなどを上手に活用して情報を集めたい。

Q6. 本出願前に出願の可否を判定するための「予備面談・事前面談」を実施しますか



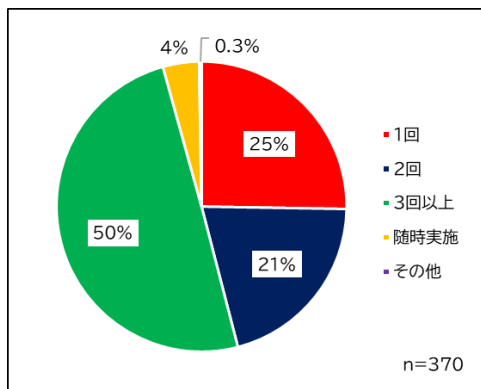
本出願前の予備面談・事前面談を「実施する」割合は18%（67回答）、「実施しない」割合は82%（301回答）となった。予備・事前といっても出願可否を判定するもので、実質の一次選抜となる。「実施する」と回答した大学のうち、その時期が最も早かったのは4月中で2%（前年度調査では5月が最も早かった）、夏休みまでの実施で41%と半数近くになる。総合型選抜を検討する受験者は、選抜スケジュールや出願条件はもちろん、出願前のエントリーが必要か否かと、提出書類を確認しておかないと、試験自体を受けられなくなってしまう場合がある。エントリー段階では併願を可能にしている大学もあるため、総合型選抜での受験を考えている生徒はその点の情報も合わせて確認しておきたい。

Q7. 出願要件として「オープンキャンパス」「入試説明会」「オリエンテーション」など、いずれかへの参加は必須ですか



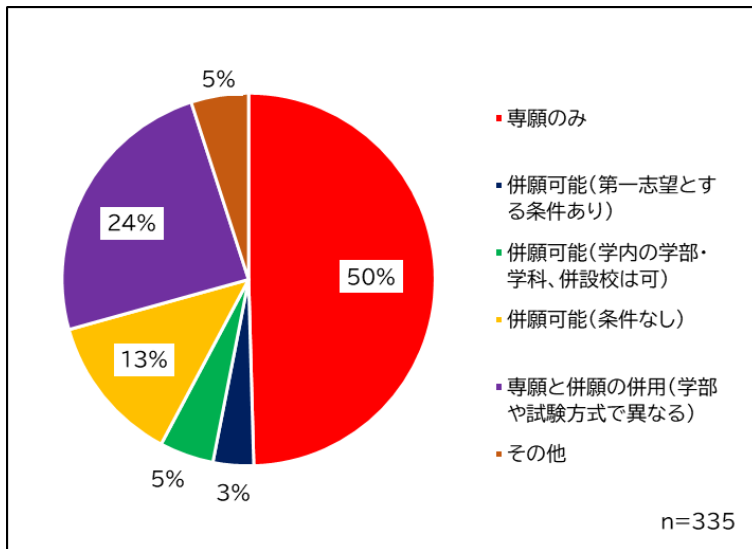
「必須」が17%（62回答）、「必須ではない」が53%（198回答）、「参加を推奨」が30%（112回答）だった。必須の場合は参加が受験資格になるので、志望大学の出願要件は早めに確認しておきたい。たとえ必須でない場合でも、大学を知ることができる機会は有効活用したい。大学の特徴を知るだけでなく、志望理由や面接の対策になる情報提供がなされる場合もあるからだ。大学側も大学理解のためにこうした説明会の参加を歓迎している。なにより、ミスマッチのない大学選択のために大切である。1、2年生であっても早すぎることはない。

Q8. 総合型選抜は何度の試験回数を予定していますか（例：Ⅰ期・Ⅱ期と実施する場合、2回とカウント）

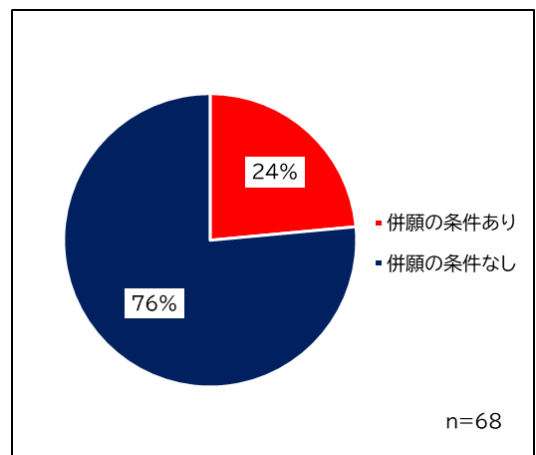


1回と回答したのが25%（94回答）、2回が21%（77回答）、3回以上が50%（185回答）だった。全体的な傾向は例年と変わることなく、多くの大学で複数の受験機会があることがわかる。ただし、同じ大学の総合型選抜であっても、学部・学科の違いや試験方式の違いによって試験回数には違いが出てくるためリサーチは欠かせない。選考方法によっては再受験できるケースもあるため、受験戦略に応じて挑戦したい。ただし、遅い日程の「総合型選抜」になるほど、合格者数が絞られていく傾向があるので注意が必要だ。

Q9. 他大学との「併願」の可否をお答えください(私立大学のみ)



「専願と併願の併用(学部や試験方式で異なる)」と回答した場合の、併願条件の有無 ↓



本設問は、自大学と他大学の併願を念頭に質問している。今年度から、「併願可能」な場合の条件を「第一志望」、「学内の学部・学科・併設校は可」、「条件なし」で分けて聞いた。さらに、「専願と併願の併用(学部や試験方式で異なる)」と回答した場合、併願に条件が課されるかも質問した。

「専願のみ」とした私立大学は50%(161回答)で、昨年度調査の56%から減少した結果となった。併願を許可している割合を合わせると21%(72回答)となり、こちらは昨年度の19%から微増だった。併願可能な場合の条件は、「条件なし」が最も多く13%(44回答)で、第一志望を条件とする併願可能は3%(12回答)に留まった。

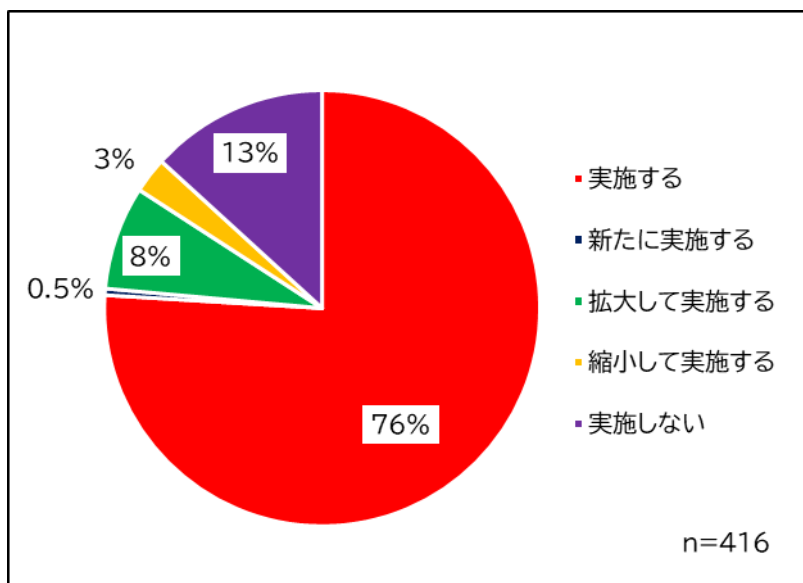
学部や試験方式によって「専願と併願を併用」している割合は24%(83回答)で、同じ総合型選抜でも入試方式によって条件を変えているケースが多く見られた。ただし、そのなかでも併願が可能な場合は、「条件なし」としている割合が76%(52回答)で多くを占めた。

「その他」と回答した5%(17回答)の詳細をみると、「エントリー時は併願可、出願時は併願不可」とするケースが最も多く、半数近くだった。それ以外では、「I期のみ併願可」や「10月の選考は併願可、11月以降の選考は不可」など、期で異なるケースや、「奨学生に採用された場合は辞退不可」などの条件を設けている事例があった。

総合型選抜でも併願を認めている大学が多いことはわかったものの、受験する予定の大学が複数ある場合には、大学や受験する入試ごとに異なる条件を把握する必要があるが出てくる。受験戦略に大きな影響が出るところなので、早めに情報収集をしておきたい。

【学校推薦型選抜(公募制)について】

Q10-1. 2025年度入試で、学校推薦型選抜(公募制)の実施予定はありますか〔全体〕



● 「拡大して実施」の内訳
(複数回答・無回答あり)

学部数	実施回数	募集人員
6	10	15

● 「縮小して実施」の内訳
(複数回答・無回答あり)

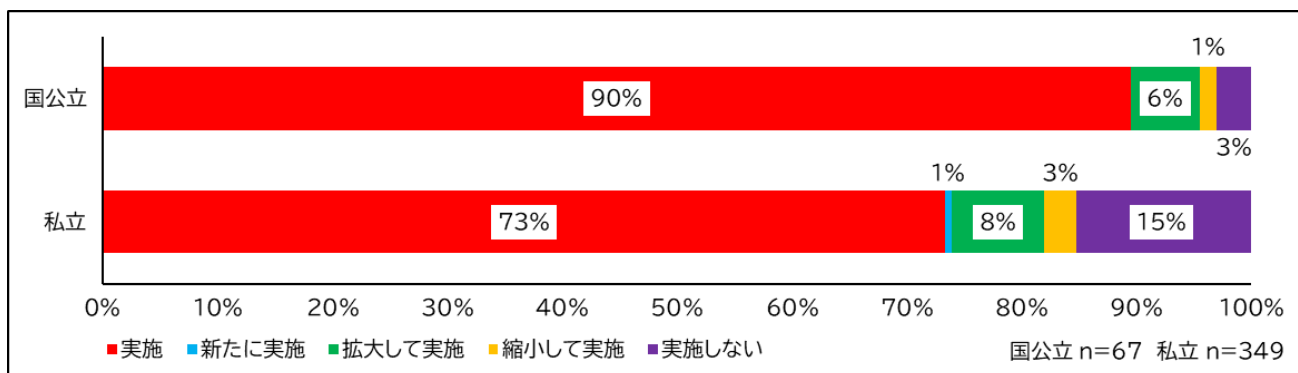
学部数	実施回数	募集人員
2	1	9

これまで通り「実施する」が76% (316回答)と多くを占めた。「新たに実施」はわずか0.5% (2回答)で少数だったものの、「拡大して実施」は8% (32回答)に上った。拡大する理由には、「受験の早期化と年内志向といった受験生のニーズに対応するため」や「年内で優秀な生徒を確保するため」など、昨今の受験生の傾向に合わせた動きがみられた。なお、関西方面では「学力重視型の導入」を拡大の理由に挙げた大学があった。関東でも学校推薦型選抜で基礎学力型を導入する大学が出てきたので、各大学が今後どのような動きをみせるのか注目したい。

「縮小して実施」の場合、その理由としては「新たに総合型選抜を実施するため」や「総合型選抜に募集人員を移動するため」など、より受験者数を伸ばしている総合型選抜の定員や回数を増やすために学校推薦型選抜を整理し、受験者を獲得しようとするケースがみられた。「実施しない」理由では、「指定校のみ実施」が最も多かった。

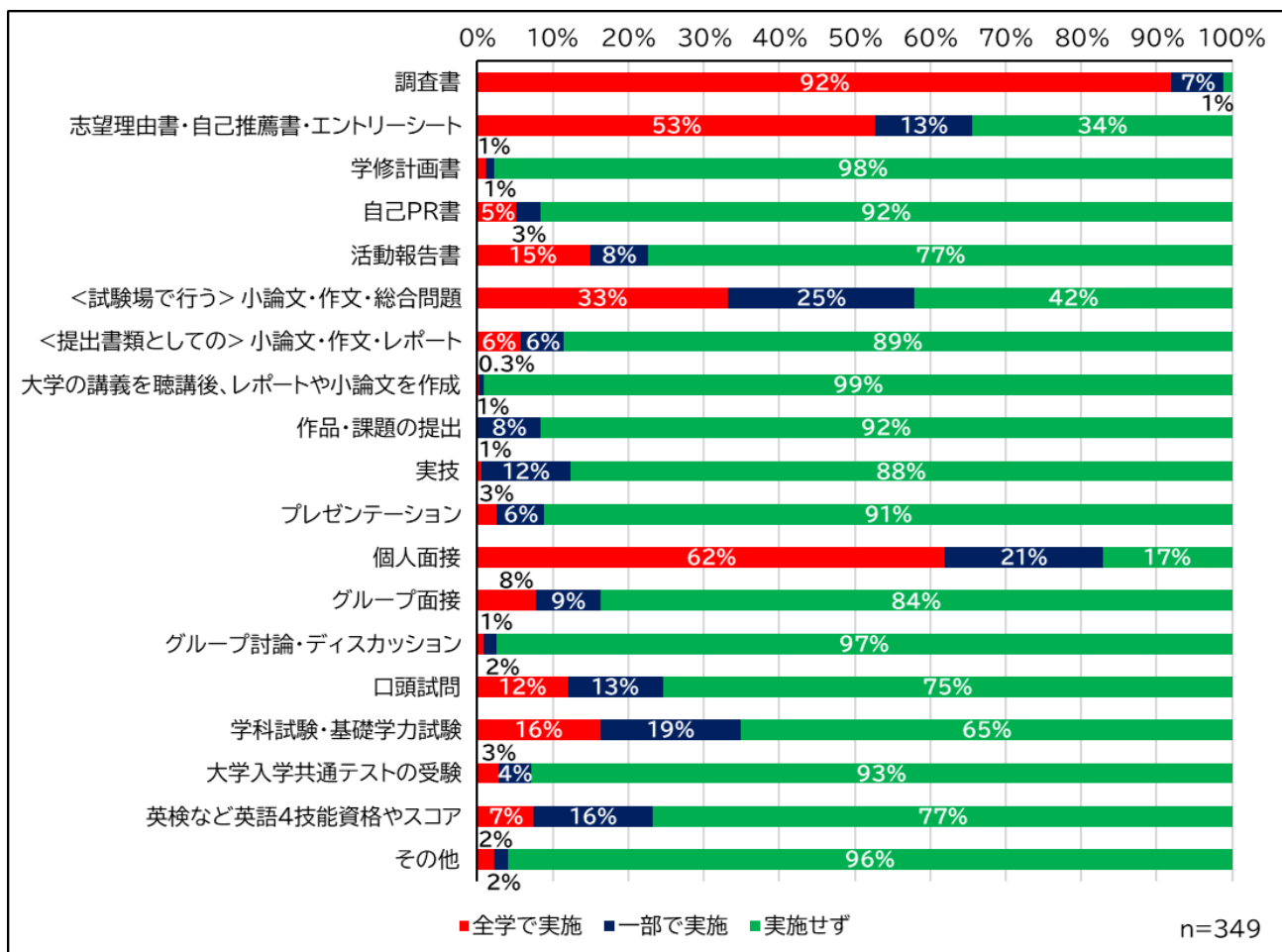
全体としては縮小より拡大する大学のほうが多いものの、今後は総合型選抜の定員や回数を増やすような動きがさらに強まる可能性もある。また、国公立大学でも共通テストを課さない学校推薦型選抜方法が増えている。今後こうした流れに各大学がどう対応していくのか、その動向に注目していきたい。

Q10-2. 2025年度入試で、学校推薦型選抜(公募制)の実施予定はありますか〔設置者別〕



国公立大学は「縮小して実施」も含め、97% (65回答)が学校推薦型選抜を実施している(昨年度は99%が実施)。私立大学は「縮小して実施」も入れて、85% (296回答)が実施と回答している(昨年度は89%が実施)。2025年度は、国公立大学の6% (4回答)、私立大学の8% (28回答)で拡大する計画にある。

Q11-1. 選考で課しているものは何ですか(エントリー時の内容含む) [全体]



※「全学で実施」は「全ての学部や方式」で導入、「一部で実施」は「一部の学部・学科や方式」で導入

「調査書」「志望理由書・自己推薦書」「個人面接」「<試験場で行う>小論文・作文・総合問題」が例年の調査と同じく上位にくる結果となった。「調査書」は総合型選抜と同様にほぼすべての大学で選考に使われている。「学校推薦書」は必須とみなし、選択肢に設けていない。

「個人面接」と「志望理由書・自己推薦書」は上位にきているものの、「全学で実施」「一部で実施」を合わせた割合は、総合型選抜のそれと比べると低い(個人面接:学校推薦型83%/総合型91%、志望理由:学校推薦型66%/総合型91%)。ただし、「<試験場で行う>小論文・作文・総合問題」は、学校推薦型が58%、総合型が49%で、学校推薦型のほうが割合は高くなっている。

総合型選抜と比べて割合の差が大きかったのは、「自己PR書」(学校推薦型:8%/総合型:24%)、「<提出書類としての>小論文・作文・レポート」(学校推薦型:12%/総合型:35%)、「作品・課題の提出」(学校推薦型:8%/総合型:23%)、プレゼンテーション(学校推薦型:9%/総合型:57%)、「グループ討論・ディスカッション」(学校推薦型:3%/総合型:15%)だった。一方、学校推薦型のほうが割合が高かったのは、「グループ面接」(学校推薦型:17%/総合型14%)、「学科試験・基礎学力試験」(学校推薦型:35%/総合型:23%)、「大学入学共通テストの受験」(学校推薦型:7%/総合型:5%)だった。

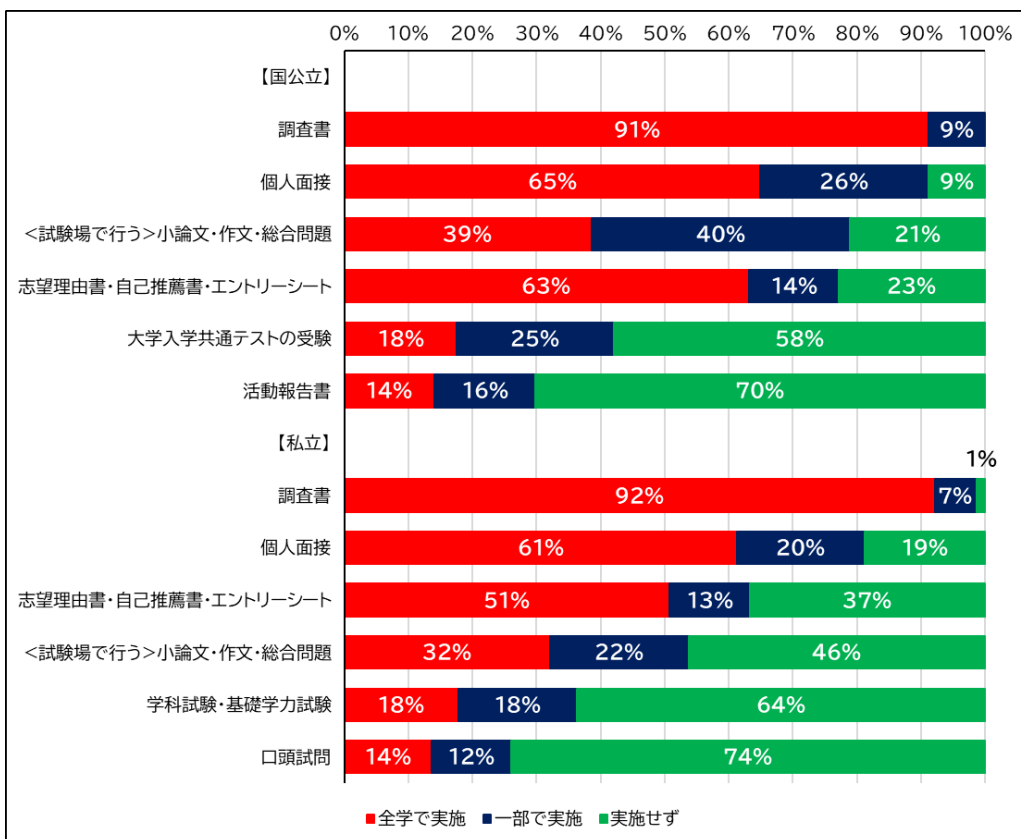
「その他」の回答では、「探究活動報告書」が挙げられた。「活動報告書」(「全学で実施」と「一部で実施」を合算して23%)と同様に、高校時代における活動の積み重ねを記録しておくことが必要になる。当然、書く内容も問われるので、入試に向けた動きを早い学年から意識させ、日頃の高校生活を充実したものにしたい。

Q11-2. 選考で課しているものは何ですか(エントリー時の内容含む)〔設置者別:上位6項目〕

設置者別の割合では、国公立大学・私立大学ともに「調査書」、「個人面接」、「<試験場で行う>小論文・作文・総合問題」、「志望理由書・自己推薦書」が上位4項目に入っている。

国公立大学の場合、昨年度38%で上位にあった「学科試験・基礎学力試験」は28%（16回答）で、「活動報告書」が30%（17回答）で上位6項目に入った。

私立大学は、上位6



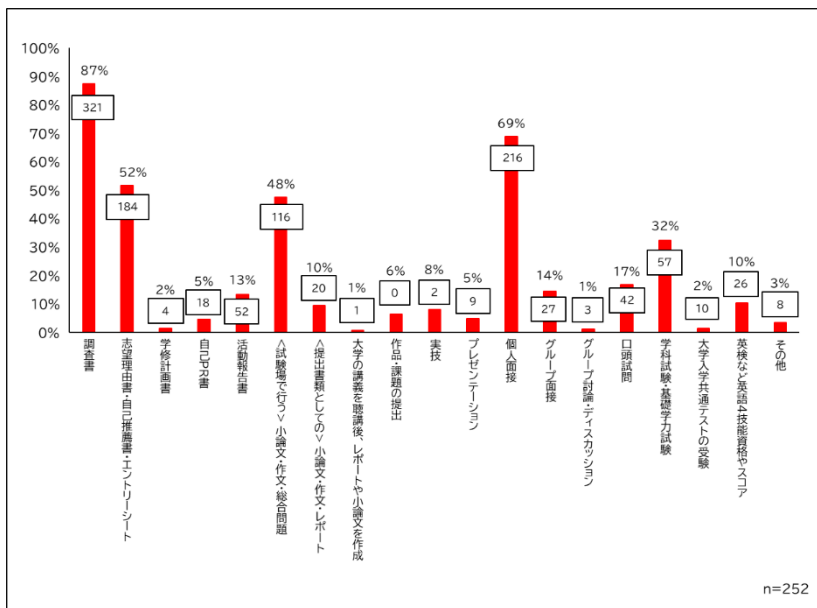
項目のラインナップは前年度と変わらず、それぞれの割合にも大きな変化はみられない結果となった。総合型選抜では上位にあった「プレゼンテーション」は、学校推薦型選抜で課される試験科目の上位6項目には入らなかった。

Q12. 入試でとくに重視する選考内容は何ですか(5つまで選択可)

棒グラフの上段の数値は、「とくに重視する」とした回答率、下段の囲みにある数値は先の Q11-1 の各項目にて、「全学で実施」とした回答数を示している。

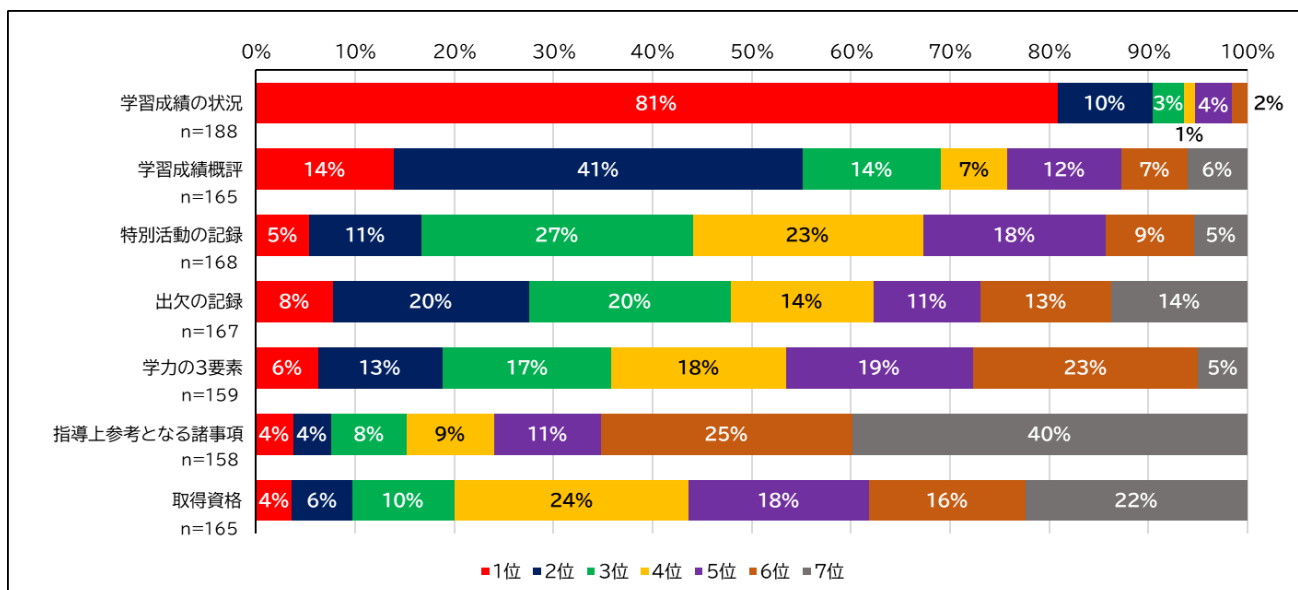
選抜でとくに重視する選考内容は、「調査書」、「個人面接」、「志望理由書」、「<試験場で行う>小論文・作文・総合問題」で、昨年度とその傾向に変わりはない。

上位4つから差はあるものの、「学科試験・基礎学力試験」が続く結果となった。Q11-2で触れた学力試験だが、課される場合には、合否判断においてやはり重



要な指標としてみられている。ただし、この結果はあくまでも「とくに」重視する選考内容である。大学・学部ごとに課される試験内容に対して、しっかりと対策して万全の準備で臨みたい。

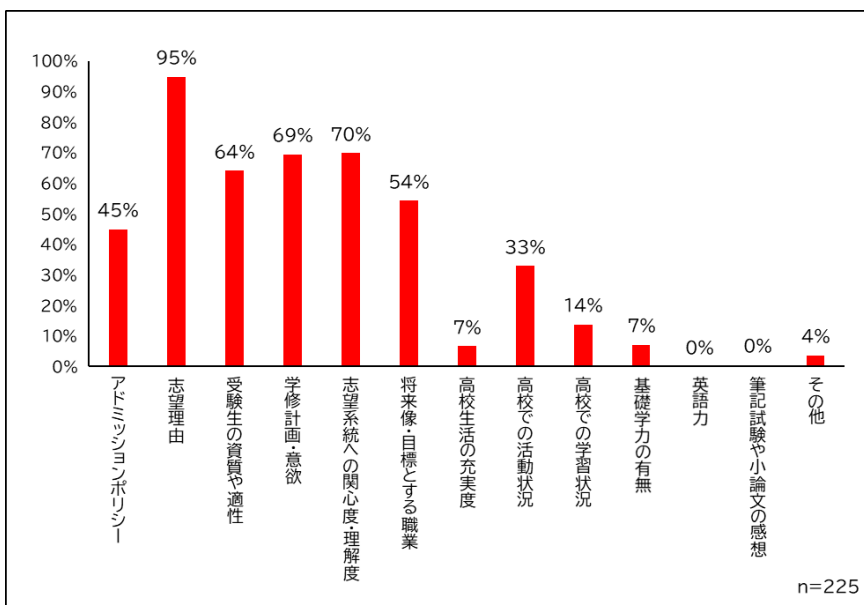
Q13. 調査書で重視する項目は何ですか(重視する順に1~7位で順位づけ)



全体的な傾向や項目ごとの割合は例年と比べても変化はそれほどみられなかった。学校推薦型選抜においても、「学習成績の状況」が1位だけで81%（152回答）、2位~3位を合わせると94%で最も重視される項目になっている。「学習成績概評」が続き、こちらは3位まで合わせると69%だった。「出欠の記録」も3位まで合わせた割合は48%と、重要視している大学が多い。「指導上参考となる諸事項」は、総合型選抜と同様にその割合は低く、3位まで合わせても16%だった。「学力の3要素」は成績や出欠の記録と比較すると重視している割合は低いものの、「知識・技能」や「主体性」については、調査書がそれらの評価に活用されていることがわかる（Q20参照）。

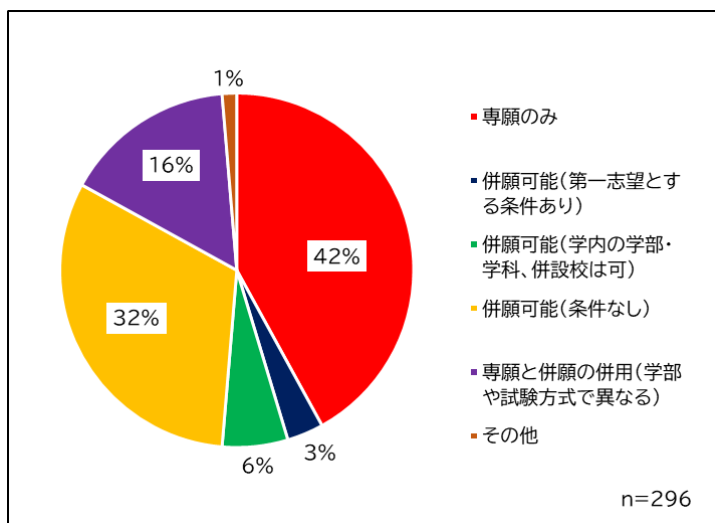
Q14. 面接で尋ねる項目で、とくに重視するものは何ですか(5つまで選択可)

「志望系統への関心度・理解度」が70%（157回答）で、前年度調査より7ポイント増えた。この傾向は総合型選抜と同様だった。また、「受験生の資質や適性」が前年度調査より8ポイント増えて、64%（144回答）となった。回答数の多かった「志望理由」、「資質や適性」、「学修計画・意欲」、「志望系統への関心度・理解度」、そして「将来像・目標とする職業」をみると、やはり面接では「なぜ、大学で学びたいのか」、「なぜ、その大学なのか」、「なぜ、その

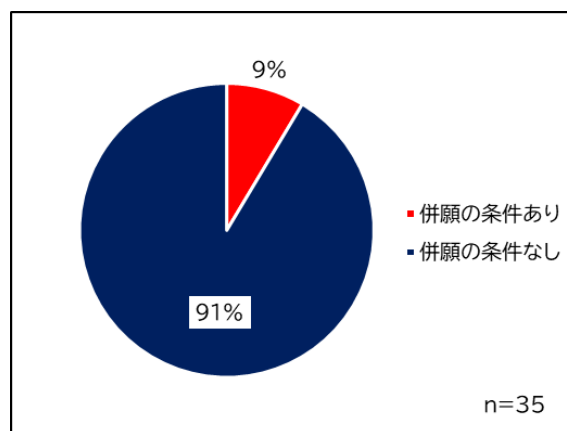


学部・学科なのか」、「学んでどうしたいのか」といった部分への自己理解が重要になると考えられる。大学は「調査書」や「小論文」などで「基礎学力」を確認しているため、面接試験では「学びへの意欲」に最大の関心を持っているといえる。「その他」では、「対人関係能力」や「他者と協働して学ぶ態度」などの「コミュニケーション能力」が目立った。

Q15. 他大学との「併願」の可否をお答えください(私立大学のみ)



専願と併願の併用(学部や試験方式で異なる)と回答した場合の、併願条件の有無



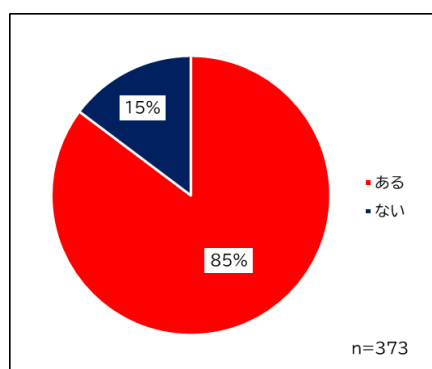
Q9同様、本設問は自大学と他大学の併願を念頭に質問している。また、今年度から、「併願可能」な場合の条件を「第一志望」、「学内の学部・学科・併設校は可」、「条件なし」で分けて聞いた。さらに、「専願と併願の併用(学部や試験方式で異なる)」と回答した場合、併願に条件が課されるかも質問した。

「専願のみ」とした私立大学は42%(126回答)で、昨年度調査の45%から大きな変化はみられない。併願を許可している割合を合わせると41%(123回答)で、前回から9ポイント増える結果となった。総合型選抜と同様、併願可能な場合の条件については、「条件なし」が最も多く32%(95回答)、第一志望を条件とする併願可は3%(10回答)で、総合型選抜と同様にそれほど多くなかった。「専願と併願を併用」している割合は16%(47回答)で、そのうち「条件なし」が91%(32回答)を占めている。

学校推薦型の場合、総合型選抜と比べて「併願可能(条件なし)」の割合が大きく増えているのが特徴としてみられる。「その他」はわずか1%(4回答)で、「専願型・併願型のどちらかを選択して出願」など、受験生が選べるケースがあることに加え、「併願可能だが、合格後の入学が条件」といった受験戦略を考える段階で認識しておくべき点も見られた。事前の情報収集が欠かせない。

【学校推薦型選抜(指定校)について】

Q16. 指定校枠の有無についてお答えください(私立大学のみ)。ある場合、全体の募集定員に対する指定校枠の割合もお答えください



指定校枠が「ある」としたのは私立大学の85%(318回答)で、多くの大学で枠が用意されていることがわかった。全体の募集定員に対する指定校枠の割合は以下の通りだった。

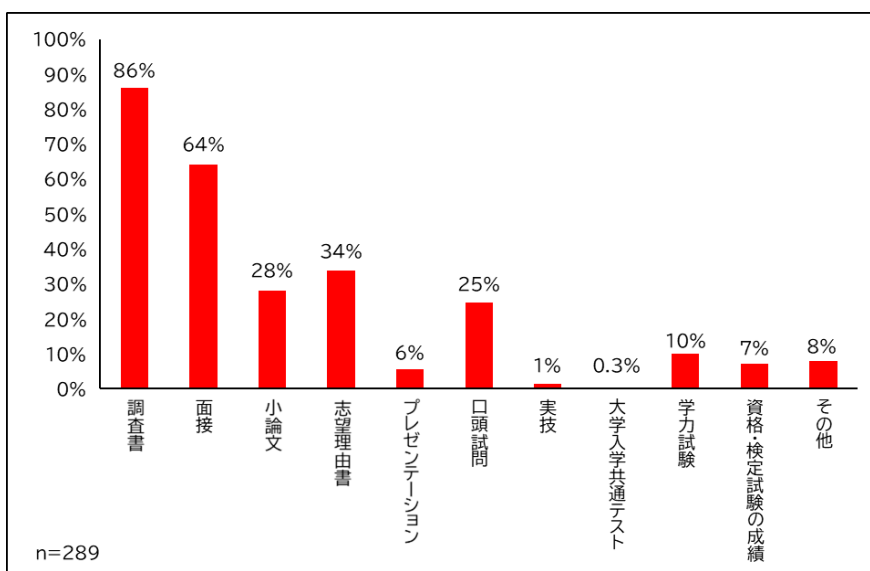
定員に対する割合	1~10%	11~20%	21~30%	31~40%
回答率	9%	31%	24%	17%
定員に対する割合	41~50%	51~60%	61~70%	71~80%
回答率	10%	5%	3%	1%

n=138

Q17. 基礎学力の評価方法についてお答えください

指定校推薦において、大学側がどのように基礎学力を測っているのかを聞いた。

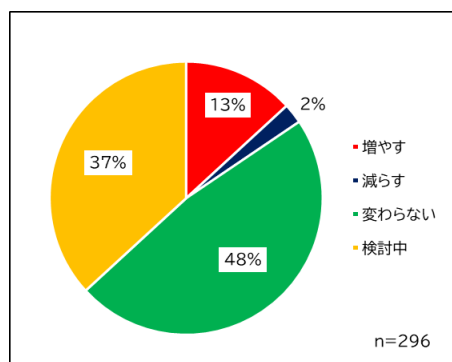
最も回答が多かったのは「調査書」で86%(249回答)だった。Q13であったように、とくに「学習成績の状況」および「学習成績概評」を重視して考えていると考えられる。次に「面接」で64%(185回答)が続いた。小論文や志望理由書、口頭試問を課すケースもあるが、それぞれ28%(81回答)、34%(98回答)、2



5%(71回答)と3割程度で、この傾向は一昨年度および昨年度と変わらない結果だった。

指定校推薦の場合、校内選考を通れば原則的に合格だと思込みがちだが、大学が求めている学力との差が大きかったり、定員以上に指定校枠に出願者が集まったりすると、不合格になるケースもあるので注意したい。「その他」では、「活動報告書」や「グループディスカッション」、「日本語読解力テスト(リーディングスキルテスト)」があった。

Q18. 指定校推薦枠の定員の見直しについて、大学全体の傾向をお答えください



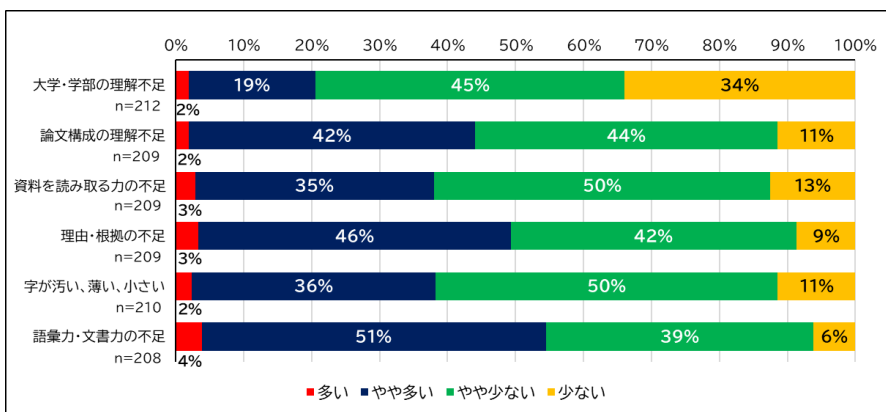
「変わらない」と回答した大学が48%(141回答)で半数近くを占め、「検討中」が37%(109回答)だった。「増やす」は13%(39回答)で、「減らす」の2%(7回答)を上回っている。

指定校枠は高校と大学の関係性で成り立つ。18歳人口が減少するなか、大学側がどのように学生を確保していくのかも問題だ。昨今、高大連携協定を結ぶ事例も多くみられる。探究活動などの教育強化の面だけでなく、指定校枠の確保へとつながる動きが、今後さらに盛んになるのか注目される。

【共通内容】

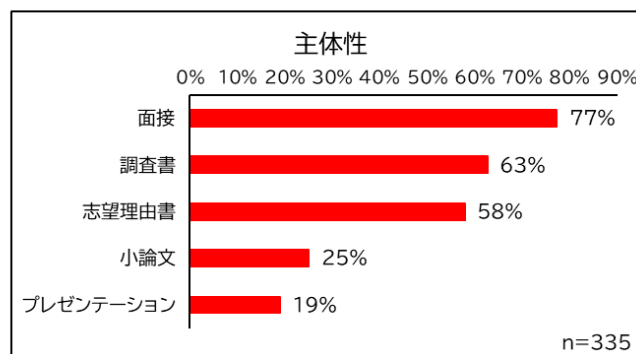
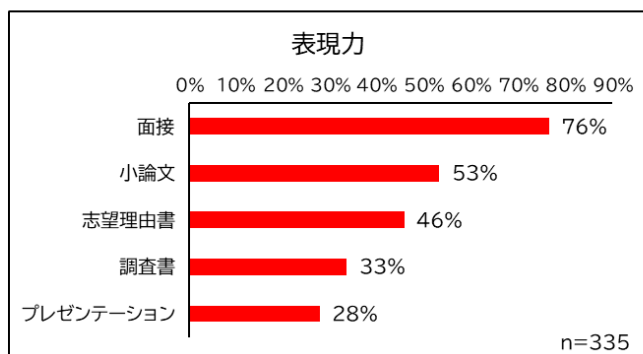
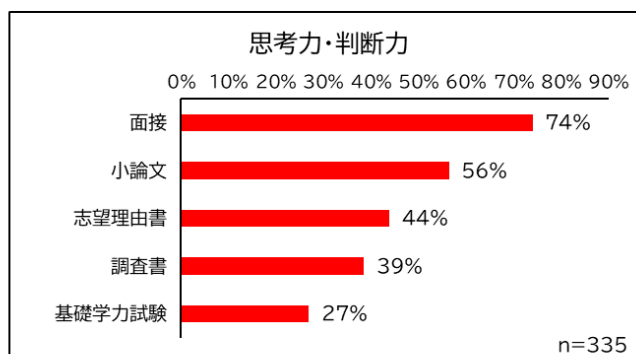
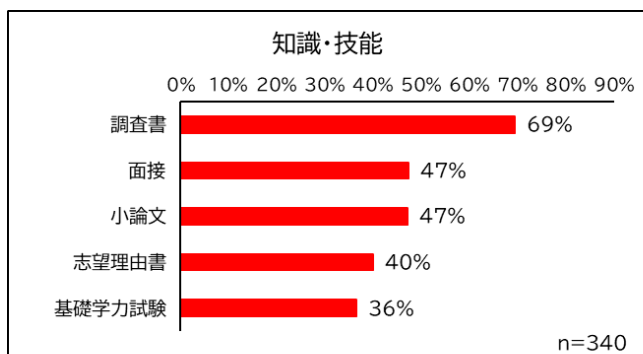
Q19. これまでに受験生から提出された文章課題について、項目ごとの見解をお答えください

「理由・根拠」の項目において「多い」「やや多い」を合わせた割合が大きいのは気になるところだ。自らの考えを示す部分が弱いと、文章課題の評価は著しく下がってしまう。また、「語彙力・文章力」と「論文構成」の項目においても、大学側は不十分と感じているようだ。書く内容を十分に持っていて、的



確に表現して読み手に伝えることができなければ、評価を得られない。受験学年になってから対策を始めるケースもみられるが、早くから論理的な文章の読み書きに触れさせたい。

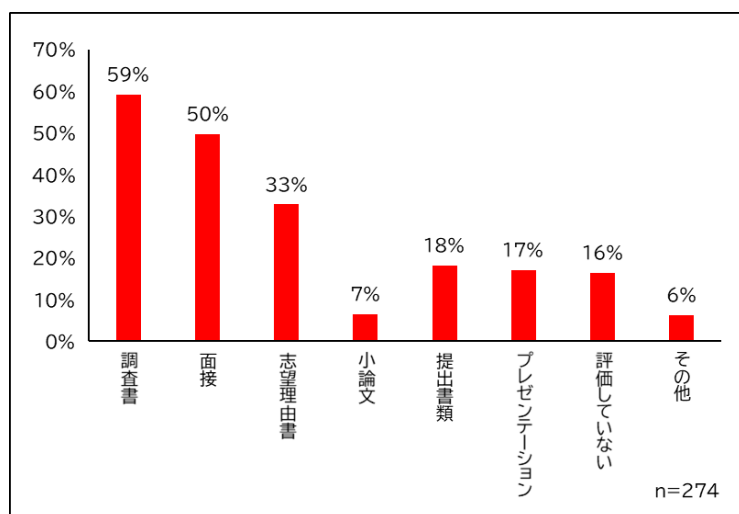
Q20. 「学力の3要素」に対する評価方法についてお答えください



※ 学力の3要素の評価方法を調査して、各要素で上位5項目をピックアップ

学力の3要素の評価において、とくに目立っているのは「調査書」、「面接」、「小論文」、「志望理由書」である。どの要素においても上位にきていることから、選抜においてこれらが果たす役割は大きいことがわかる。「知識・技能」と「思考力・判断力」においては「基礎学力試験」が、「表現力」と「主体性」においては「プレゼンテーション」がそれぞれ上位5項目に入った。「その他」では、「知識・技能」で共通テスト、「思考力・判断力」で講義レポート、「表現力」および「主体性」で活動報告書とグループディスカッションが目立った。大学によっては、どのような選考内容で3要素を評価するのか、入学者選抜要項に明記している場合があるので、受験対策のために必ず参照しておきたい。選択肢には、他に「口頭試問」、「英検や簿記などの資格」、「実技」を並べた。

Q21. 入試における「探究活動」の評価方法についてお答えください

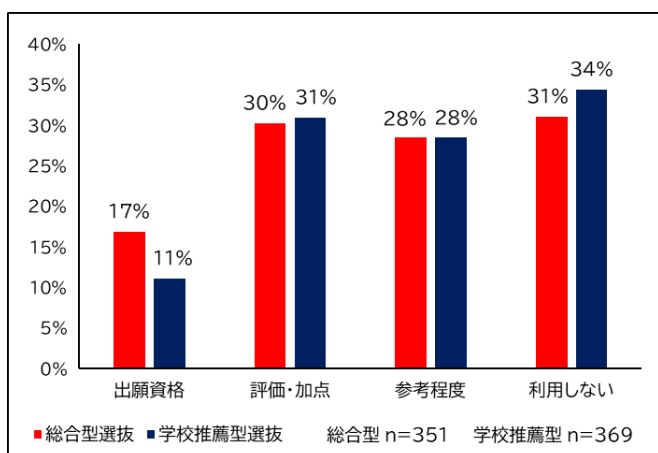


今年度調査から新設した設問で、「探究活動」の評価方法を聞いた。「調査書」が59%（162回答）で最も多く、面接が50%（136回答）が続いた。33%（90回答）だった「志望理由書」は、探究活動によって得た学びへの関心や意欲をどのように志望動機へとつなげているのか、その点を表現できているのかをみていると考えられる。「その他」のなかで目立ったのは「活動報告書」で、半数を占めた。

探究活動の評価においては、各大学の特性や求める学生像に応じて、その評価方法を定めて

いる。大学から公表されている情報にアクセスして把握することも必要だが、大学関係者へのヒアリングを通してポイントを押さえていくのもよいだろう。この点でも、高大接続のなかで高校と大学が連携を図っていく意義がある。

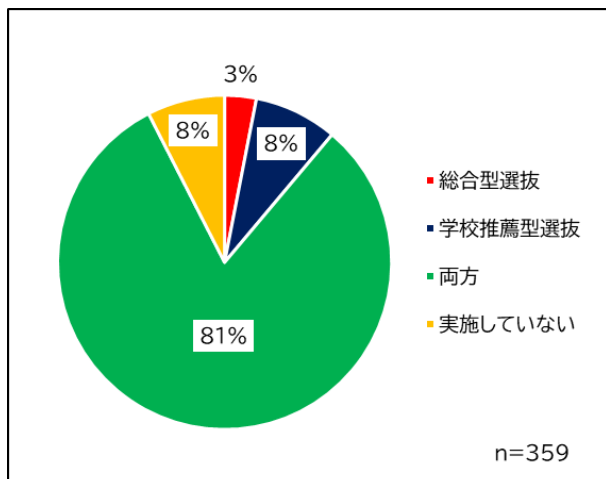
Q22. 英検や GTEC など英語4技能の利用の仕方についてお答えください



総合型選抜では、「出願資格」が17%（59回答）、「評価・加点」が30%（106回答）で、両者を合わせるとおよそ半数の大学で、英語資格やスコアが出願もしくは評価に影響を与えるものとなっている。学校推薦型選抜の場合は、「出願資格」と「評価・加点」を合わせると42%（155回答）だった。「参考程度」および「利用しない」とする大学も、それぞれ3割程度ずつある。

英語4技能の資格やスコアは、利用するうえで、入試日から2年以内、各団体の規定によるなど、大学によって取得期限（有効期限）が異なるので注意が必要だ。

Q23. 合格者への入学前教育の実施についてお答えください

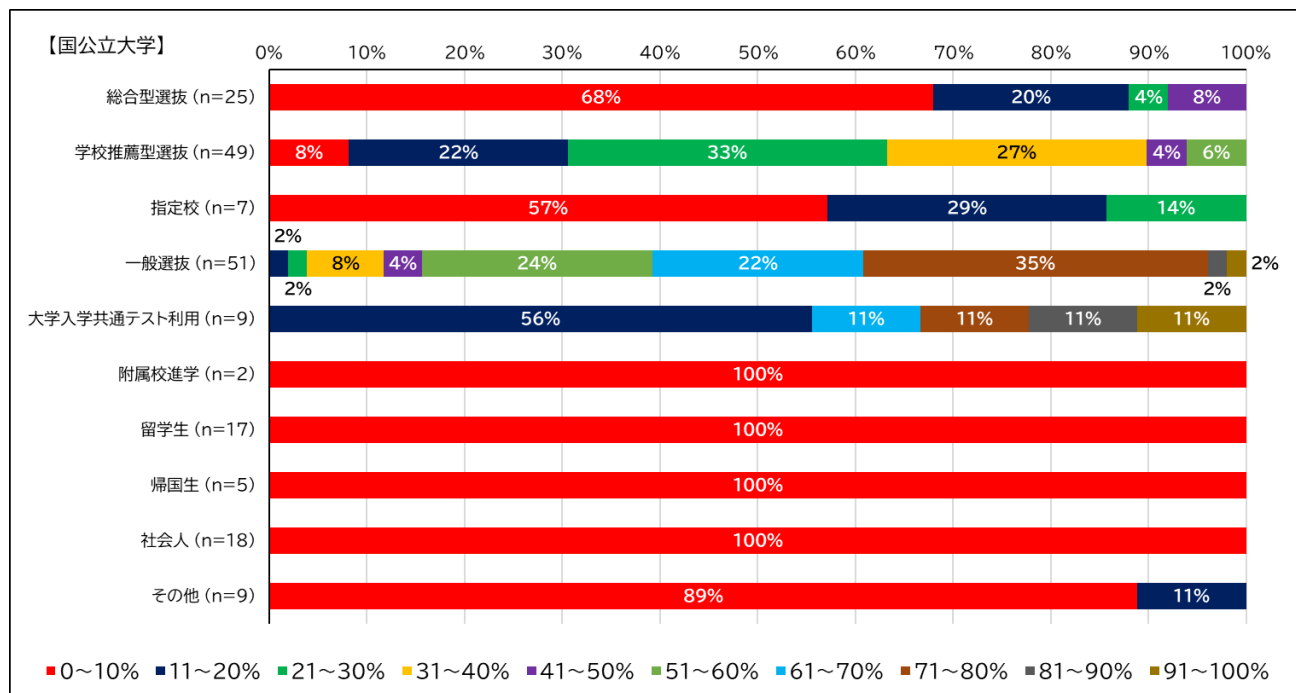


約9割の大学で入学前教育を実施していることがわかった。そのうち、総合型選抜・学校推薦型選抜の両方での実施が81%（292回答）、総合型選抜の合格者のみが3%（11回答）、学校推薦型選抜の合格者のみが8%（29回答）だった。入学前教育の実施方法によっては、高校での学びに支障が生じたり、教員の負担になったりすると高校側の声はあるが、大学教育のための準備として、多くの大学で実施されているようだ。

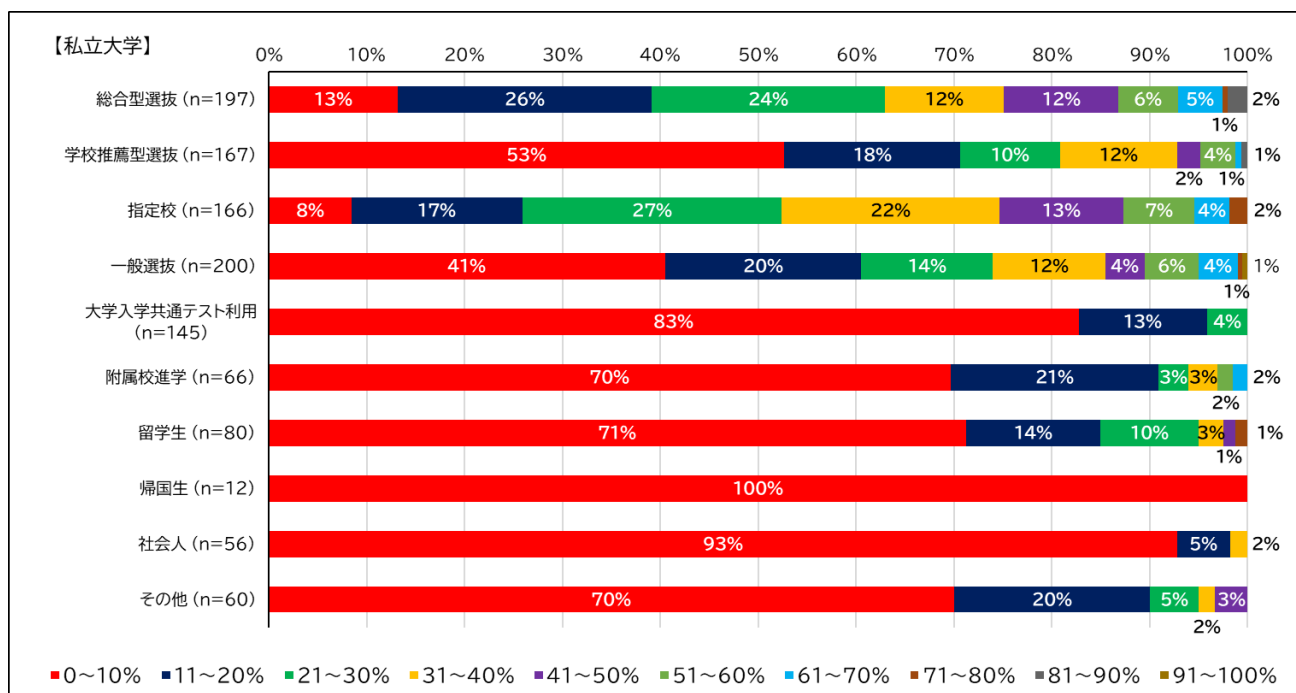
スムーズな大学生活のスタートに向けて各大学が工夫をこらして展開しているので、生徒は大切な機会にしたい。

Q24. 2024年度入試での、おおよその入試別入学者の割合をお答えください(参考資料)

国公立大学では、総合型選抜における入学者の割合は「0～10%」が68%(17回答)と半数以上を占めている。学校推薦型選抜では、「11～20%」、「21～30%」、「31～40%」がボリュームゾーンである。国立大学は、2022年1月に発表した「2024年度以降の国立大学の入学者選抜制度の基本方針」で、「学力試験以外の要素を加味した「総合型選抜」・「学校推薦型選抜」などの丁寧な入学者選抜の取組を加速・拡大する」との声明を発表しているため、今後の動向に注目したい。



私立大学では、総合型選抜・学校推薦型選抜・指定校・一般選抜などの主要な入試種別で、大学ごとに入学者の割合にばらつきが出る。どの入試でどのくらい入学者を獲得するのか、大学ごとの方針によって大きく異なる結果となった。総合型選抜と学校推薦型選抜を比較した場合、前者のほうが入学者の割合が多い層が増える結果となった。



Q25. 総合型選抜・学校推薦型選抜で不合格になった受験生の特徴をお答えください(自由記述/一部抜粋)

都道府県	区分	回答内容
北海道	私立	本学への理解が浅く、オープンキャンパスの参加回数が少ない。準備不足。
北海道	私立	アドミッション・ポリシーの理解不足。大学や学科を理解するための情報が足りていない。
北海道	私立	面接で質問の意図を理解できない。調査書や口頭試問から知識不足なの分かる。
宮城県	私立	志望する学部・学科の学びの目的について理解が不足していることから、能力・意欲・適性等をアピールできていない。
宮城県	私立	オープンキャンパスの参加回数が少ないために、大学への理解が浅い。準備不足。
山形県	私立	大学への理解度が低い。志望動機が明確でない。
福島県	私立	明らかな学習不足、かつ志望系統への関心度が低い。
福島県	私立	基礎学力不足。高校時の欠席日数が多い。
茨城県	私立	志望理由や将来像が不明確。
栃木県	私立	コミュニケーション能力の不足。基礎学力の不足。
栃木県	私立	アドミッション・ポリシーの理解不足。基礎学力不足。学習意欲の不足。
栃木県	私立	受験をしているのに、面接時に進学意欲を感じられない。
群馬県	私立	基礎学力の不足。面接時の受け答えが不十分。
群馬県	私立	希望している分野についての事前準備ができていない傾向が見受けられる。
埼玉県	私立	面談や面接でコミュニケーションがとれない。
埼玉県	私立	面接試験において、志望動機や自己PRが不十分であった。
埼玉県	私立	大学の理解が不足している。
埼玉県	私立	資格についての理解が不足している。特定の職業を目指す理由が弱い。
埼玉県	私立	志望学科の理解不足。
埼玉県	私立	受験学部・学科への理解が浅く、面接において自身の考えを伝えることができない。
埼玉県	私立	アドミッション・ポリシーの理解不足。学修意欲のアピール不足。志望学科への関心度や理解度が低い。
埼玉県	私立	面接などで上手にコミュニケーションをとることができない。
埼玉県	私立	文書力が著しく欠如していた。面接で質問の意図が理解できていなかった。
埼玉県	私立	オープンキャンパスに参加したこともなく、学部や学科のことを全く知らない。面接の際、質問されても全く答えられないか、見当違いの回答をしてしまう。話の構成がバラバラ、かつ敬語を使えない。
千葉県	私立	本学での学習意欲や目的が明確でない、または伝わらない(面接練習不足)。志望理由書などの出願書類のボリュームが不足している(誰にも見てもらっていない)。
千葉県	私立	志望理由が明確でない。将来の夢や目標と学部の学びについて整合性がない。面接の練習が不足しているため、質問に答えられない、プレゼンテーションができない。
千葉県	私立	エントリーシートが不十分。面接の練習が不十分で、自分の意見を伝えられない。
東京都	私立	アドミッション・ポリシーとの乖離がみられる。
東京都	私立	大学の理解が浅い。志望する学部・学科のアドミッション・ポリシーと学びの理解が不足している。オープンキャンパス不参加による情報不足。プレゼンテーションの準備不足。
東京都	私立	学力不足。一般選抜の入学者と比べて入学後の学習についていけないのでは、という懸念がある。

都道府県	区分	回答内容
東京都	私立	面接時のコミュニケーション力が極めて低い。小論文試験で自分の考えを論理的に説明できない。所定の文字数を埋めることができない。
東京都	私立	志望理由書や面接では、実績や学群の特長を羅列するばかりで、自身の振り返りや学ぶ姿勢、これからの展望について、ストーリーとして表現できていない。
東京都	私立	面接での受け答えなどは問題なくても、欠席日数が極端に多いと可否に影響してしまうことがある。
東京都	私立	面接や入試に対する準備不足。大学入学後のビジョンがない。大学で学ぶ目的がはっきりしない。学習意欲が乏しい。学力不足。
東京都	私立	面接試験における受け答えから感じるコミュニケーション能力や進学意欲等の不足は、当該系統の学びで必須となる「グループによる実験・実習」などで問題が生じる可能性があり、他学生への支障なども考慮して判定が厳しくなる場合がある。
東京都	私立	コミュニケーション力の不足。自己PRが苦手。
東京都	私立	受験する学部・学問系統への理解や学修意欲が不十分。志望理由が不明確。
東京都	私立	大学入学後のビジョンがない。進学目的がはっきりしない。学修意欲が乏しい。学力不足。
東京都	私立	志望理由を暗記しているために、面接で臨機応変な受け答えができない。
東京都	私立	面接対策不足。志望理由書の内容を精査しきれしていない。
東京都	私立	出願書類・面接を通して、その内容に一貫性・整合性がない場合は、残念な結果になっていることが多い。
東京都	私立	面接の受け答えにおける準備不足。志望理由や入学後の学生生活に関する具体的な説明をできないケースなどが見受けられた。
東京都	私立	面接・口頭試問の際に回答が滞り、評価が困難な例があった。準備不足と思われるケースと、そうではないケースの両方がある。
東京都	私立	学力不足。
東京都	私立	問いに対する理解不足。
東京都	私立	アドミッション・ポリシーの理解不足。志望動機が明確でない。
東京都	私立	アドミッション・ポリシーと合わない。
東京都	私立	基礎学力の不足。志望系統の理解不足。
神奈川県	私立	出願書類の内容の確認不足。プレゼンテーションの準備不足。
神奈川県	私立	コミュニケーションがうまく取れない。志望意思の強さが感じ取れない。
神奈川県	私立	アドミッション・ポリシーの理解度が低い受験生が見受けられた。
神奈川県	私立	面接で自己PRや志望動機を明確に伝えることができない。
神奈川県	私立	面接時に自分の言葉で話すことができない。志望理由書を丸暗記していて、書いていないこと以外を話せない。話に一貫性がない。
新潟県	私立	基礎学力の不足。
石川県	私立	親の意向の強さがうかがえ、本人から入学意欲を感じられない。
石川県	私立	面接での確な受け答えができない。小論文の内容が不十分。基礎学力が乏しい。
山梨県	私立	コミュニケーションが取れず、面接が成立しなかった。
長野県	私立	目的意識が弱い。主体性はあるが協調性に欠けているなど、「周囲を巻き込む力」を有していない。

都道府県	区分	回答内容
長野県	私立	コミュニケーション力の不足。基礎学力の低さ。
岐阜県	私立	志望理由が不明確で、面接時に入学の意思を感じられない。基礎学力テストの得点が低く、大学で学ぶための学力が不足している。
岐阜県	私立	学力の3要素が総合的に不足している。基礎学力試験での得点が足りていない。
岐阜県	公立	学習意欲を感じられない。
静岡県	私立	試験を実施するなかで、協調性が欠如していると思われる言動が目立った。
静岡県	私立	保育者になることへの理解不足。
静岡県	私立	学部・学科での学びについて、理解が足りていないと考えられる印象が強かった。
静岡県	私立	志望理由が不明確。学力不足。
愛知県	私立	基礎学力不足。
愛知県	私立	学部・学科に関する理解が不足している。
愛知県	私立	面接での質問に対して回答できなかった。
愛知県	私立	小論文が書けていない。字数制限800字に対して600字未満であった。事前の取り組みや対策が不足していると思われる。
愛知県	私立	面接と小論文の対策が不足している。
愛知県	私立	面接時、質問に対して的確な回答ができなかった。
愛知県	私立	志望する大学の理解不足。受験科目の準備不足。
愛知県	私立	コミュニケーション力が低く、大学での学びに耐えられないと判断した。
三重県	公立	受験に対する準備不足。
三重県	公立	大学で学びたいことが不明瞭。質問したことと回答が合っていない。
滋賀県	私立	事前相談や面接において、学修計画や意欲、志望理由などを話すことができない。
京都府	私立	暗記していること以外を面接で話せない。
京都府	私立	大学理解、コミュニケーション力、積極性、自己表現力が不足している。
京都府	私立	コミュニケーション力が著しく不足している。
大阪府	私立	面接での受け答えで話がかみ合わない。
大阪府	私立	面接の準備不足。
大阪府	私立	提出物と面接の準備が、合格者と比べて不足しているように感じる。
大阪府	私立	受験する学部・学科のアドミッション・ポリシーや特徴などを理解しておらず、学修計画書や口頭試問などで不明確な回答が見られた。
大阪府	私立	志望学部への理解が不十分。
大阪府	私立	学部・学科についての理解が不足している。
大阪府	私立	アドミッション・ポリシーの理解が不足している。
大阪府	私立	学部での学びの内容や、アドミッション・ポリシーの理解不足。
大阪府	私立	面接時に、質問に対する受け答えができていなかった。
大阪府	私立	基礎学力試験で得点がとれていない。
大阪府	国立	大学入学共通テストの成績が、学生募集要項で定める基準に達していない。

都道府県	区分	回答内容
大阪府	私立	選考方法が書類審査および面接・口頭試問による選抜においては、志望学部・学科への理解不足と、その学科への進学意思が明確でない傾向があった。
兵庫県	私立	コミュニケーション力(対話能力)に著しい課題がある。
兵庫県	私立	目標が定まっていない。目的意識がない。
兵庫県	私立	面接や口頭試問において、志望理由等が不明確であったり、学習意欲に問題があったりした。
奈良県	私立	大学の求める学生像とギャップがある受験生。大学で学びたいことがはっきりしない受験生。
奈良県	私立	総合的に対策不足。口頭試問に答えられない。
岡山県	私立	アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの3つの方針が理解できていない。
岡山県	私立	志望学科への関心度や理解度が低い。
広島県	私立	基礎学力が不足している。
広島県	私立	高等学校までに履修する教科の内容について、幅広い理解ができていない。
山口県	私立	学部・学科についての知識に乏しい。将来的な目標が乏しい。
徳島県	私立	面接での評価が低い。
香川県	私立	大学で学びたいことを具体的に示せない。学びたいという意欲が低い。
福岡県	私立	基礎学力が不足している。コミュニケーションに問題がある。
福岡県	私立	グループディスカッションや面接における評価が低い。
福岡県	私立	欠席日数が極端に多い。全体の学習成績の状況が極端に低い。
福岡県	私立	入学後の学習に対する意欲が感じられない。目標とする職業に対する適性が低いと思われる。
佐賀県	私立	受け答えができない。
長崎県	私立	プレゼンテーションの準備が不十分であった(資料の準備や練習が不足していた)。
宮崎県	私立	学科試験などの結果が合格基準に達していない。
大分県	公立	小論文を書くための読解力が不足している。
鹿児島県	私立	大学入学の目的意識があいまいで、基礎知識や修学意欲が低い傾向にある。
沖縄県	私立	アドミッション・ポリシーの理解が乏しい。準備不足。

Q26. 受験指導や進路指導に関する高校への要望がありましたらお答えください(自由記述/一部抜粋)

都道府県	区分	回答内容
北海道	私立	校種による進路指導の前に、分野による進路指導をしてほしい。
北海道	私立	高等教育無償化について、情報を生徒に周知していただきたい(それで進学を断念してほしくない)。
北海道	公立	医系大学であるため、成績や学力にくわえて、適性や将来のキャリア形成を踏まえた進路指導をお願いしたい。
茨城県	私立	早めに進路指導を実施していただきたい。
群馬県	私立	生徒に魅力ある地方大学をどんどん紹介してほしい。
埼玉県	私立	高校・大学間の関係性を深め、協力していきたい。
埼玉県	私立	オープンキャンパスの参加を促してほしい。
埼玉県	私立	大学受験に関する情報収集は、ウェブに偏らずに様々な方法で行ってほしい。

都道府県	区分	回答内容
埼玉県	私立	金銭的なことで進学を断念するケースが増えてきた。事前指導ならびに合格後のフォローで連携させていただくケースがあるので、その際は協力をお願いしたい。
埼玉県	私立	オープンキャンパスに参加してほしい。面接対策では、ノックや座る姿勢などは当たり前練習していますが、それよりも受け答えの練習回数を増やしていただくとよいかと思ひます。どれだけ本学に入学したいか、資格取得など将来の夢に向けて描いている内容を、具体性をもって伝えてほしい。
千葉県	私立	志望理由や将来の夢を深めきれないまま面接に臨んだり、志望理由書を数行しか書いていないまま提出したりと、十分な時間をかけて準備していないと思われるために不合格となるケースがあります。受験に対する生徒自身の意識・準備と、先生方による事前フォローで、もっと合格できると思ひます。
千葉県	私立	オープンキャンパスへの参加を促してください。
千葉県	私立	面接・面談を重視しているため、事前に練習してほしいと思ひます。
千葉県	私立	学修計画書の内容が不十分で、面接の質問に対して明確な答えを返せない受験生がいます。出願前に先生方の指導を受けるように周知していただければと思ひます。
東京都	私立	事前課題など、出願時に提出する書類は、先生方のチェックを促すように指導してください。本学部は、そういったことを妨げていません。
東京都	私立	学問系統の違いについて指導していただきたい。
東京都	国立	幅広い分野の基礎学力をつけさせること。
東京都	私立	早期受験の場合は、早めの準備と指導をお願いしたい。進学先のミスマッチがないように指導していただきたい。ネットの情報だけでなく、実際に大学へ足を運んで、大学のことを知っていただきたい。
東京都	私立	単に「資格取得」だけを進学目標にしてしまうと、大学4年間の学習継続に不安が生じかねません。学びの過程や資格を活用した仕事の概要などと、生徒自身の志向がマッチしているかに目を向けてほしい。
東京都	私立	受験生には、ぜひオープンキャンパスに来ていただきたい。志望学科のプログラムを受講することで、大学入学後のイメージを具体化させて出願してほしい。
東京都	私立	現状ではまだ厳しいかもしれないが、医療現場を見てから医療職を目指してほしい。
東京都	私立	志願者にはアドミッション・ポリシーと研究内容を最低限理解して試験に臨んでほしい。
東京都	私立	何事にも主体的に取り組む姿勢の醸成を期待したい。
東京都	私立	大学入学直後の学力が不足していて、とくに数学・物理は顕著です。大学でも、もう一度学習しますが、基礎の部分を理解できていないと講義についていけなくなってしまいます。
東京都	私立	保育は「書く」機会が多くあります。基本的な作文・文法・漢字の書き取りの指導をお願いします。また、可能であれば保育体験を通して、子どもとふれあう経験をしておくと、進路のミスマッチがないかと思ひます。
神奈川県	私立	出願書類については提出期日を確認させるとともに、書類の発行等が間に合うように準備する必要があることを受験生に指導してください。
神奈川県	私立	オープンキャンパスへの参加を促していただき、大学の雰囲気を生で感じてから志望校を決めてほしい。
神奈川県	私立	高校生に進路情報を与える際、世間で一般的に知られていない分野についても、ガイダンスなどの機会を通して大学関係者の話を聞けるようにしていただきたい。
神奈川県	私立	目先のニュースなどに惑わされず、生徒の希望を尊重してほしい。
神奈川県	私立	個別相談などのイベントへの参加をすすめてください。
神奈川県	私立	理系科目について、基礎学力の向上を目指してください。

都道府県	区分	回答内容
山梨県	私立	大学を知名度だけで切り捨てず、本人との相性や適性が合えば生徒へすすめてほしい。
長野県	私立	年内入試(推薦系)で合格するようにしている風潮があるものの、入学後の学生の質保証の観点では、一般選抜>総合型>公募>指定校という具合に学生が分布していることから、大学合格後でも高校での学習を怠らない指導を心がけてほしい。
岐阜県	公立	オープンキャンパスへの参加を呼びかけてください。
岐阜県	公立	小論文基礎力が大きな成果につながる。テキスト1冊を学ぶ程度で大学生活に大きな躍進が期待される。
静岡県	私立	入学前学習指導に、可能な範囲で協力していただきたい。
愛知県	私立	大学でも就職者に対しての面接対策を行っていますが、高校側でも面接練習をよろしく願います。将来の就職面接対策にもなります。
三重県	公立	言葉遣い、身なりの指導を徹底してください。
三重県	公立	面接では、丸暗記ではなく、自分の言葉で話ができるように指導してください。
滋賀県	私立	知名度の高い「知っている大学」だけでなく、「自分のやりたいことができる大学」をしっかりと調べていただきたい。
大阪府	私立	面接の練習で、自分だからこそそのオリジナリティを入れた内容を指導してください。
大阪府	私立	志望理由や目的、目標をもって進路を決定してほしい。
大阪府	私立	オープンキャンパスでは、面接試験対策ができるイベントを多数開催していますので、おすすめください。
大阪府	私立	進路指導が早期化していると感じていますが、高校1年生からの具体的な進路指導に関する流れをご教示いただきたい。
大阪府	私立	オープンキャンパスやホームページ等を通じて、大学の教育内容や雰囲気などを知ったうえで出願を検討するように周知ください。
大阪府	私立	志望理由や進学してからの目標など、自分自身をしっかりとって進学していただきたい。
兵庫県	私立	面接対策は必ず行ってください。
兵庫県	私立	短期大学に進学するメリットについて指導していただきたい。
奈良県	私立	大学が示しているアドミッション・ポリシーの理解を深めてください。とくに総合型選抜では、学力以外に個性や多様な能力を評価しますので、自己分析したうえで自分をアピールできるように準備してください。
広島県	私立	偏差値や知名度に捉われることなく、自分のやりたいことや将来を見据え、自分自身で調べ考え、進学先を決めるように指導してほしい。
山口県	私立	自分の将来像を明確にしたうえで、その職種に必要な学びや資格取得ができる学校を探すように指導していただきたい。
山口県	私立	募集要項をよく読んで、出願に必要な書類・期限・手順を守って出願していただきたい。
福岡県	私立	模範解答を暗記するような面接対策は、試験では逆効果になることがあると生徒にお伝えください。
福岡県	私立	総合型選抜と学校推薦型選抜では小論文を課しているため、小論文の指導をお願いします。
大分県	私立	ホームページやInstagramも見てください。
鹿児島県	私立	やや自主性に欠けるところがある(例:出願における問い合わせの大半が保護者任せになっていて、受験者本人から寄せられることがあまりない)。
沖縄県	私立	志願理由書の書き方を指導してください。